

## ◎第2期あきた文化振興ビジョン取組の成果・課題

方針	施策	成果・課題
1 文化の継承と発展、創造に取り組む ＜概ね達成＞	1 民俗芸能の継承支援	<p>(成果) 子どもたちや親世代に対し、民俗芸能や伝統文化に関する学びの場や体験学習の場を提供したことにより、継承機運が醸成されてきているほか、基金を活用した後継者育成、用具修理等の助成メニューの整備、活用により、団体活動の維持、活性化に繋がった。</p> <p>(課題) 用具修理は、基金の活用に加え、明治安田クオリティオブライフ文化財団から助成を受けて行っているものの、一般企業や大学等における社会貢献活動を通じた民俗芸能団体の課題解決は進んでいない。当事者間の接点も減少傾向にあり、企業や大学に対する積極的な働きかけが必要である。</p>
	2 文化財の保存、伝統文化などの継承と積極的な活用	<p>(成果) 文化財に関する映像記録の保存や展示公開が進み、縄文遺跡群をはじめとする情報発信も積極的に行ったことにより、県内や国内における文化財等への関心が高まった。</p> <p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、海外からの旅行者は減少しているが、収束後を見据え海外における認知度を向上させるためには、情報発信を更に強化していく必要がある。</p>
	3 秋田の先人が育んできた文化に光をあてる取組の推進	<p>(成果) あきた民謡祭を継続的に開催したことにより、県民の関心が高まったほか、民謡で活躍できる場の創出が次世代への継承にも繋がっている。また、国際ダンスフェスティバルはメディアにも記事として取り上げられ、舞踊・舞踏の先人のみならず、その取組にも注目が集まったことにより、県民の認知度の向上に繋がったほか、海外からの誘客にも結びついている。</p> <p>(課題) 北前船寄港地に係る誘客への取組は進んでいるものの、歴史等を伝える取組は遅れている。</p>
	4 文化創造に向けた取組への支援	<p>(成果) 様々な補助金や後援等を通じて、マンガ、現代アート等、若者文化や新しい価値を生み出すイベント等の開催を支援したことにより、単発ではなく、継続的な活動に繋がっている。</p> <p>(課題) 支援対象を更に広げ、活動を活発化させるためには、支援策のより細やかなPRが必要。</p>

方針	施策	成果・課題
2 文化活動の活発化と鑑賞機会の充実に取り組む ＜概ね達成＞	5 文化芸術活動への参加機会の確保と活動の活発化	<p>(成果) あきた文化交流発信センター（ふれあーるAKITA）における文化芸術イベントの開催を支援したほか、民間団体等が行う文化芸術活動への助成やあきた県民文化芸術祭を市町村と協力して行うことにより、団体等の活動が活性化するとともに、県民の文化芸術活動への参加機会の拡大に繋がった。</p> <p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、イベントや展示の中止が相次いだことから、ふれあーるAKITAを中心に利用者（来場者）が減少している。感染症の収束が見えない中で、いかにして文化芸術活動（イベントを中心とする）を活性化し、県民の文化芸術活動への参加の機会を確保していくのかが大きな課題となっている。</p>
	6 鑑賞機会の充実	<p>(成果) あきた文化交流発信センター（ふれあーるAKITA）でのイベントや展示のほか、希望する学校に出向いて音楽アウトリーチ活動を実施するなど、県民の鑑賞機会の充実に努めたことにより、県民の文化活動への関心を高めることができた。</p> <p>(課題) 鑑賞機会は増えているものの、鑑賞者、参加者の更なる増加に繋げるためには、ツイッターやインスタグラムなど、多様なメディアを活用した情報発信により、様々な階層へ訴求を図る必要がある。</p>
	7 文化活動の顕彰等による創作活動の増進	<p>(成果) 「秋田県美術展覧会」や「青少年音楽コンクール」等を開催し、発表する場や競い合う場を提供することにより、県民の文化芸術活動が促され、参加者の意欲が向上するなど、県民の文化芸術活動を支えるイベントとなっている。また、各種顕彰を継続的に行うことにより、創作や活動意欲の増加に繋がっている。</p> <p>(課題) 人口減少や少子化が進み、参加者や表彰対象者の頭打ち、事業予算の縮小が見込まれる中で、いかにしてイベントや表彰制度を継続していくのかが課題となっている。</p>
	8 公立文化施設の利用促進	<p>(成果) 「東北文化の日」に合わせて東北各県の文化施設が一体となって無料・割引展示や情報発信を行う等、施設の利用促進が図られたものの、公立文化施設間の連携や共同企画といった面での取組は進まなかった。</p> <p>(課題) 施設個々の取組に止まっていることから、今以上に公立文化施設の担当者間での情報共有や意見交換を密にし、連携した企画や情報提供を進めることによるメリット（来館者の周遊等）を再認識し実行していく必要がある。</p>

方針	施策	成果・課題
3 次代を担う後継者や若手クリエイターの育成を図る ＜一部未達成＞	9 学校における文化芸術体験の充実	<p>(成果) 主に学校の体育館等を会場として、演劇や音楽、伝統芸能等を鑑賞し体験できる事業を令和元年度からの3年間で延べ154公演実施しているほか、博物館や美術館等におけるセカンドスクールの利用も進んでいる。また、キャリア教育の一環として、学校ではふるさとの歴史や伝統等を学ぶ時間も設けられており、文化芸術活動に触れる機会は充実してきている。</p> <p>(課題) 限られた予算の中で、いかに取組を継続していくのかが課題。</p>
	10 文化活動を担う人材の育成と発表の場の確保	<p>(成果) 若手アーティストの育成を図る「アーツアーツサポートプログラム」により、令和元年度からの3年間で9人の作品を発表したほか、同プログラムの中でディレクターやキュレーター志望者の育成も行っており、人数は少ないものの、着実に人材の育成が行われ、発表の場も確保されている。</p> <p>(課題) 予算の制約の下、年間の育成人数が少数であることや本県の文化芸術をリードする指導者の育成には時間がかかる等、育成が小規模かつ長期間となっていることから、より簡素に即効性のある取組も検討する必要がある。</p>
	11 青少年の国際文化交流等の推進	<p>(成果) 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、多くの交流事業が中止となったことにより、成果を把握することは困難。</p> <p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、国際交流をどのように行っていくのか、また、現状は交換留学や修学旅行、三井住友海上文化財団の助成事業を活用した交流に止まっていることから、そのあり方を含めて改めて検討していく必要がある。</p>

方針	施策	成果・課題
4 地域の文化資源を活かして交流人口の拡大を図る ＜一部未達成＞	1 2 東京オリンピック・パラリンピック等を契機とする文化による交流人口の拡大	<p>(成果) 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、東京オリンピック・パラリンピック開催年の「beyond2020 プログラム」の認証件数が当初目標に対して伸び悩んだほか、東京オリンピック・パラリンピック開催前後に予定していた大規模文化イベントの多くが中止となったことにより、交流人口の拡大に繋げることは困難であった。</p> <p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、交流人口の拡大に効果がある大規模イベントをいかに開催していくのか、また、県外からの誘客をどのように行っていくのか改めて検討を要する。</p>
	1 3 文化資源を活かした特色ある地域づくりの推進	<p>(成果) 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、一部中止したイベントがあったものの、「かみこあにプロジェクト」や「マンガ活用事業」等、地域の文化資源を活かした大規模文化イベントの開催を支援することにより、地域の活性化や交流人口の拡大に繋がった。</p> <p>(課題) イベント実施主体の一部には組織や資金面での課題があり、今後も継続して事業を実施できるのか不透明である。また、新たな特色ある取組に対して、どのような形で支援（補助、後援等）することが望ましいのか改めて検討を要する。</p>
	1 4 文化情報の発信強化	<p>(成果) 県の文化情報発信サイト「フンカ DE ゲンキ」等を通じた情報発信を行ったものの、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、テレビや雑誌等多くの人の目にとまるメディアを通じた情報発信は困難であった。</p> <p>(課題) テレビや全国的な雑誌による情報発信の効果は限定的であり、これまで以上に様々なメディアを活用した情報発信を行うことで、多様な階層へ訴求を図る必要がある。</p>
文化振興の基盤となる取組 ＜達成＞	1 5 本県文化の中核拠点となる 県・市連携文化施設の整備	<p>(成果) 今年5月にあきた芸術劇場（ミルハス）の建築工事が無事に完了した。また、県民の注目が集まる中で、プレ事業や開館記念事業による文化の機運を高めることに繋がった。</p> <p>(課題) 新規開館施設はどこも同様であるが、開館3年目以降の集客に課題あり。</p>